

目的　ドライクリーニングにおけるシミの除去効果およびシミ抜きによる生地染色堅牢度を調べるために次の実験を行った。(1)代表的和服地の耐ドライクリーニング性(2)モニターによるブラッシングのシミ抜き効果(3)スチームスポッターによるシミ抜き効果。

方法　(1)代表的市販和服地のドライクリーニングと水、中性洗剤水溶液、ドライクリーニング洗剤(4種)への浸漬実験を行い、収縮率、変退色、汚染をJISに基づいて判定した。(2)モニターによるブラッシング操作(ササラ、ブラシによるたたき、超音波シミ抜き機を組み合わせたもの)後、石油系ドライクリーニングを行った。(3)スチームスポッター処理を処理時間および生地からノズルまでの距離を変化させて行った。なお、(2)、(3)の実験は塩化ナトリウム汚染布を試料とし、実験後は残留塩化ナトリウムをクラーク法で測定し、生地の変退色はハンターの色差によって測定した。

結果　(1)ドライクリーニングは全て3%以下の収縮であった。水に浸漬した場合は5%を超えたものが6種、10%を超えたものが4種あり、和服地としての機能性を再検討する必要があるものと判断される。また、シミ抜き剤としては水、中性洗剤による汚染が目立っている。(2)モニターによるブラッシングではシミの除去効果が意外に低かった。(3)スチームスポッターでは予想に反してシミの除去効果が高く、シミ除去率に比例して色差にも若干の変化がみられた。